



「ヤマトネイチャーサークル」は、株式会社ヤマトが行なっている様々な自然環境への取り組みの総称です。

さらなる自然との共生を目指し、地域社会や自然環境への貢献を目的として「ヤマトネイチャーサークル」は幅広い情報を発信していきます。

葉画家群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち vol.64 絵と文群馬直美

夢のつぼみ《シモバシラ》

10月の初めビオトープ園を訪れると、
白い花穂をつけた茎が地面から伸び出ている。

何の花だろう？

近くのプラスチック製の札に、うっすらと文字が……。

シ、モ……バ、、シ……、ラ……？ シモバシラだ！

以前NHKテレビで、初冬の風物詩として紹介されていた。

根っこが吸い上げた水が枯れた茎から吹き出て、
夜の寒さで凍りつき、芸術的な氷柱になる。

1月になって地面が完全に凍り、茎がビリビリに破けるともう出来なくなるけれど、

11月末から12月いっぱいシモバシラの氷の花がたのしめる。

テレビでは実際の花は紹介されていなかったが、花も寒い冬の朝の霜柱のようだった。

5~6センチほどの花穂を7つ付けた茎を採集し、

立川のアトリエでしげしげ眺めてみると、なんと、花穂には裏と表があった。

私がビオトープ園で見えていたのは、花穂の裏側。

まっすぐ伸びた軸に花がお行儀よく右と左に列になって並んでいた。

が、表から見ると、細かな花が3列~4列にひしめき合っている。

その上、それぞれの花から4本のオシベが伸び出て交差し、何が何やらよくわからない。

小指ほどの長さもない花穂で美しく咲き誇る花たちに、私の心は千々に乱れた。

ああ、ああ……と、茎の天辺からさがるように7つの花穂を眺めていくと、

一番下の小振りな花穂が微笑みかけてきた。4個開花しているがほぼ全てつぼみ！

おお、なんて落ち着くんだらう。花の構造も、全体像もはっきりよくわかる。

茎をはさんで右側にはつぼみのはじまりの穂の姿もある。

5センチ余りの花穂を4.55倍に拡大して描く。

描いていると、ころりと丸いつぼみたちのエネルギーが伝わってくる。

つぼみは夢と希望にあふれている。つぼみ一つ一つが私自身の持つ夢のように感じられてきた。

どんなに歳を取ってもちいさな夢のつぼみを心の中にたくさん持つことはできる、

と思うととても幸せな気持ちに包まれた。

表紙の絵 「シモバシラのつぼみと花 ×4.55」

夢のつぼみがいっぱい！

右側には夢のつぼみのはじまりが続々と。

・ヤマトビオトープ園にて2022.10.3採集
・紙(アルシュ 極細目)/テンペラ
・size:310mm×230mm
・2022.10.28完成
© Naomi Gumma

建設プロダクト  ヤマト

株式会社ヤマト 総務部広報室

2022年12月発行

〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の實の美術館』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>